

平成30年度小松島市事務事業評価シート

■事業の位置づけ（基本事項）				整理番号	4 - 2 - 9
事務事業名	観光・イベント振興事業			担当課係	商工観光課 企業振興・商工観光担当
総合計画上の位置付け	政策	③ 未来への活力を育むまちづくり		記入担当者	
	基本目標	7. 活気あふれるまちづくり		内線等	
	施策	7-2 観光交流によるにぎわい創出		E-mail	
	基本方針	7-2-1 観光の振興			
事業の実施主体	市（委託・補助事業含む）			事業区分	経常事業
事業予算費目	款	7	商工費	項	1 商工費
	目	4	観光費	事業	2 観光・イベント振興事業
開始年度		年度	根拠法令・要綱等		

■事務事業の概要（実施内容）	
事業の対象	（誰の、何のために事業を実施するのか） 市民、観光客
事業の目的 （意図）	（事業実施によってどういう状態にしたいのか） 観光イベント等を行い、観光客を呼び込むことにより、地域の賑わいの創出や観光・交流の場を広げ、地域や観光地等の活性化につなげる。
事業の内容 （内容・手法等）	（どういった仕事の内容で、どのような手法・手順で実施しているか） 小松島商工会議所への委託や観光イベント主催団体への補助、また、本年度より、小松島の魅力を高める観光資源創出事業の業務委託を行い、小松島市の地場産品を使った新しい特産品の開発をする「売れる！特産品づくり講座」の開催や、小松島観光物産検討会を設置し、市民参加型のワークショップ等を開催して小松島市の観光ビジョンの作成を行い、今後の観光の方向性を検討する
事業の背景 （経緯等）	（事業開始の背景やこれまでの経緯） 市では、小松島新港完成を祝し始まった「小松島港まつり」をはじめ、「小松島春のまつり 金長まつり」、「チャリティー阿波踊り」など、多彩な観光イベントが県民・市民に定着しており、毎年多くの観光客が訪れ、賑わっている。また、小松島の魅力を高める観光資源創出事業の実施にあたり、市の地場産品を使った日持ちのする特産品や、体験型観光商品等が少なく、以前より検討が必要であった。

■事務事業の業績・推移（目標・実績）

成果指標	指標名			指標の説明				指標化できない成果
	単位	H29	H30	R1	R2	目標年度 目標値		
人	イベント集客数	小松島港まつり集客人数						観光客の心証・満足度 市民の定着度、期待度
	目標	140,000	140,000	-	-			
	実績	130,000	130,000					
	達成度	92.9%	92.9%					
活動実績・参考となる指標	小松島港まつり集客人数（阿波踊り大会）	人	計画	20,000	20,000	5,000	5,000	（計画）は目標 （実績）は公式発表人数
			実績	20,000	20,000			
	小松島港まつり集客人数（花火大会）	人	計画	110,000	110,000	80,000	80,000	（計画）は目標 （実績）は公式発表人数
			実績	110,000	110,000			
				計画				
				実績				
			計画					
			実績					

■事務事業に係るコストの業績（目標・実績）

（単位：円）

		29年度決算	30年度決算	30年度予算	R1年度予算	
全体コスト（円）	A 直接事業費	11,922,602	23,002,223	23,937,000	36,944,000	
	財源内訳	国県支出金	2,065,000	7,621,961		
		地方債				
		利用者負担				
		一般財源	9,857,602	15,380,262		
	B 人件費 ①×②	1,672,712	1,498,760			
	職員平均人件費①	5,575,706	4,995,865			
従事した割合②/人	0.30	0.30				
A + B	13,595,314	24,500,983				
単位コスト	活動指標の説明	イベント集客数 130,000人	イベント集客数 130,000人		備考 平成29年4月1日現在 人口38,817人 平成30年4月1日現在 人口38,156人	
	活動指標1単位当たりコスト	105	188			
	市民一人あたりのコスト	350	642			

■事業を取り巻く環境

国・県・他団体の動向や環境変化と今後の予測	(社会状況、法改正、規制緩和、周辺の状況等や今後の予測) 県内でも大きな花火大会がある小松島港まつりに関し、市民や県民の期待は大きい。イベント経費や安全対策等に要する運営経費は年々増大しており、財源の確保が困難となっているため、運営方法の見直しや運営費の確保について検討していく必要がある。また、イベントのみならず、観光客が本市に訪れる機会とすべく、特産品や観光商品等の醸成が必要であるため、他市町村の先進事例等を参考に各関係団体とも連携をしながら今後も観光資源の創出を進める必要がある。
事業に対する住民の意見	(意識調査・議会質疑等、事業に対する期待・要望・苦情など) 小松島市の夏の一大イベントとして小松島港まつりをはじめ、その他の観光イベントなどについても市民や県民に定着しつつあり、問合せも年々増加している。観光資源に限られている本市にとってイベントの開催は効果的であり、発展・継続していくことが望ましい。また、新たな観光資源の創出にあたり、改めて市内の観光資源のブラッシュアップを行うことで、市内の事業所や住民にも経済効果が生まれる可能性がある。

■項目別評価・今後の課題

評価項目	評価結果 (該当にチェック)	判断理由・評価コメント (具体的に記入すること)
必要性 (市民ニーズ)	<input type="radio"/> ① 必要性が高い	本市の観光資源を生かしたイベントの充実を図り、市民や県民が一体となって参加できるイベントを開催したり、地域の観光資源を発掘・発信することは、地域活性化や地域の賑わい創出に不可欠である。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば必要性がある	
	<input type="radio"/> ③ 必要性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必要性がない	
妥当性 (市で行わなければならないか)	<input type="radio"/> ① 市が行わないといけない	観光の振興と交流の推進、市のPRを図るためには、市の支援が必要不可欠である。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば市で実施	
	<input type="radio"/> ③ 必然性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必然性がない	
効率性 (事業の手法は効率よいが、コスト削減の余地はないか)	<input type="radio"/> ① 効率的である	主催団体に対し直接支援するため、イベントの実施に直結し、効率的である。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば効率的	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば非効率的	
	<input type="radio"/> ④ 非効率的	
緊急性 (他事業に優先し、実施する必要があるか)	<input type="radio"/> ① 緊急性が高い	小松島港まつりについては、本市を代表する恒例イベントとして市民に定着しており、県内外からも多くの来場者がある。このようなイベントは本市の観光や特産品をPRする機会でもあり、賑わい創出にも寄与していることや、新たな観光資源を創出することで、イベントのみならず観光客を呼び込む機会となるため、その優先度や必要性は高いといえる。
	<input type="radio"/> ② 比較的緊急性がある	
	<input type="radio"/> ③ 緊急性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 緊急性はない	
成果 (目的の達成状況)	<input type="radio"/> ① 成果が上がっている	観光イベント開催時は、県内外の方にも多数来場をいただいております。賑わいづくりや地域活性化・市のPRにつながっている。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば上がっている	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば上がっていない	
	<input type="radio"/> ④ 成果は上がっていない	
今後の課題	地域活性化や賑わい創出に向け、市の財政状況や経済・社会情勢等に考慮しながら、本市の観光資源を活かしたイベントや食や体験の観光商品づくりについて検討を図る。イベントの開催については、安全対策に係る費用が増大傾向にあり、運営費の確保が課題であると同時に、祭りの内容の充実や規模の拡大等が今後の課題となっている。	

■一次評価 (評価点は目安とし、総合的な評価をすること)

評価	事務事業の方向性	1 拡 充 す る	80 点 以上	評価点による判定	判定に至った理由
		2 現状のまま継続する	60 ~ 79 点		
2		3 改善・効率化し継続	40 ~ 59 点	79	本市の地域活性化や賑わい創出に繋がる事業であり、県内外から観光客の入り込みが見込めるため、波及効果も期待できる。特に小松島港まつりについては、小松島の代表的な事業の一つでもあるため、観光振興の観点や地域の発展という観点からこれからも継続する必要がある。
		4 終期設定し終了	20 ~ 39 点		
		5 完了・休止・廃止	19 点 以下		

■改善・効率化の方向性 ※一次評価の判定が3の時は、必ず記入すること。

【具体的な改善等取組内容 (方向性・対象・手段等について記述)】

■二次評価 (所管担当の一次評価を、総合評価し判定すること)

評価	事務事業の方向性	1 拡 充 す る	判定説明
		2 現状のまま継続する	
2		3 改善・効率化し継続	今後も、来場者のニーズや小松島市の経済効果、強いては賑わいづくりへの波及効果等を、幅広く検討しなければならない。また、市の財政状況や経済・社会情勢等に十分に考慮しながら、イベントや食・体験等の観光地づくりを検討する必要がある。
		4 終期設定し終了	
		5 完了・休止・廃止	